

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』
◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

令和6年1月25日発行

第 11 号

備えあれば 憂いなし

新しい年を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。学校では、1月15日の始業式から10日ほどが過ぎ、冬休み中は静まりかえていた校舎に、子どもたちの明るく元気な声が響いています。2024年（令和6年）が子どもたちにとって希望に満ち、明るい年になることを願わずにはられません。本年も本校の教育活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

新年がスタートした1月1日、能登半島を震源とする最大震度7の大きな地震が発生し、たくさんの方が亡くなり、今なお自宅に戻れず避難生活をされている方が大勢います。能登半島地震により、被害にあわれた皆様に心よりお見舞申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表します。

能登半島地震では、地殻変動により最大で4mもの隆起が起こったことで、避難所に物資が届かないなど「想定外」のことが多々起こっています。日本では、これまでも北海道南西沖地震、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、胆振東部地震などで「想定外」のことが起きてきました。科学技術の進歩で自然現象についても随分予測がなされるようになりましたが、改めて想定を超える被害にあうことを含めた日頃の心構えと具体的な準備が肝心だと感じました。

災害への備えとして、まずは「自助」が大切です。自分が生活していくうえで最低限のものを日ごろから準備していくことが「自助」に当たります。次に大切なことは、互いに不足分を補いあって助け合う「共助」です。そして最後は「公助」です。今回の地震のようにライフラインが機能しなくなれば、当然、

地域の皆さんは、避難所や公的機関の助けを受けなければなりません。しかし、私たちが意識しておきたいのは、「公助」は「共助」や「自助」のうえに成り立つものであることです。

先人は私たちにメッセージを残しています。「備えあれば 憂いなし」。日ごろからの心構えも忘れずにご家庭での準備もお願いいたします。

確認をお願いします

苫小牧市学校防災マニュアル
地震・津波によける臨時休業基準

地震	震度5強以上の場合、校舎の安全確認ができるまで臨時休業
津波	大津波警報が発表された場合、臨時休業